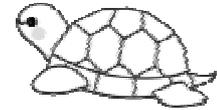


「退職世代の運用相談 その1」



退職者のニーズ(ライフスタイル・価値観を知る)と老後の不安とは

1. リタイアメントプランニングとは:退職者のニーズ(ライフスタイル・価値観を知る)

リタイアメントプランニングでは、年金や貯蓄、資産運用など「お金」の話に集中しがちです。しかし、私が相談業務で気を付けている点は、

将来は「どこで・誰と・どのように暮らす(例:持ち家を売却するのか)? 介護してくれるのは誰か? 終の棲家は?」など、生活に密着したテーマについて、夫婦で素直に話し合い、明確にイメージし共有することであり、

特に転居を伴うご家庭の老後設計では、夫婦の価値観が異なると、退職後の「別居」や最悪の場合には残念ながら「離婚」となりかねませんのでご注意ください。

体力・気力ともに充実し自由な時間を手にする 60 歳代のリタイアは、夫だけでなく妻にも生活パターンの大きな変化をもたらします。この変化を上手くクリアしなければ、うつ病や奥様の主人在宅ストレス症候群、アルコール依存症など精神や肉体に重大な変調をもたらす病気にいたる可能性も少なくありません(元上場会社の役員である私の顧客の方で現実におられます)。

2. ご相談の多い話題

「年金はいつから・いくら位受給できるのでしょうか?」

現在 61 歳の方ですが、当分は 2 階部分の報酬比例部分の年金しかもらえないのであれば、せっきゃく会社が声を掛けてくれたから、関連会社で自分の技術が活かせる職場で 65 歳まで働く予定です。この方は公的年金(12 万円)と会社からの報酬(20 万円)で月に 32 万円となり、在職老齢年金は公的年金と会社からの報酬で月に 28 万円以下でないと支給されず、この方は、公的年金はゼロですが、ご本人のお話では自宅毎日いるより、外で働いていた方が、自分も奥様も幸せとのコメントでした。

運用のご相談

- ・運用はあまり欲張らないことが重要である(2%~3%の運用で十分です)。
- ・資産運用に回せる金額を予め計算する(生活資金を別に確保することです)。
- ・リスクの分散をすること(資産の組合わせを)特に、期間の分散もすること。
- ・投資信託では、信託報酬などのコストをよく比較すること。

現在加入の生命保険・医療保険・個人年金保険のご確認

- ・特に、生命保険の特約がいつまで付いているかの確認をする。
- ・特に退職後は医療保険が重要です。

3. リタイアメントプランニングで大変ご参考になるデータです

(1) 厚生労働省から中高年の就業等に関する調査結果が公表されました。

第 6 回中高年者縦断調査(平成 24 年 2 月 22 日)より。

< 概要 >

1. 60~64 歳の半数超が「65 歳以降も仕事を続けたい」と考えていることが分かりました。
2. 調査時点で働いている 60~64 歳の人で、「65~69 歳になっても仕事をしたい」と答えた人は、全体の 56.7%。男性は約 6 割(59.5%)にもものぼります(女性:52.3%)。
3. 「70 歳以降も仕事をしたい」と望んでいる人も 3 割弱(28.7%)と、みなさんの働く意欲はとても強いようです。

(2) 総務省から「家計調査報告(貯蓄・負債編) - 平成 23 年平均結果速報 - (二人以上の世帯)」平成 24 年 5 月 15 日に総務省から家計調査報告(平成 23 年平均)が公表されました。

< 概要 >

1. 二人以上の世帯における1世帯当たりの平均貯蓄現在高は、1,664万円である。
そのうち勤労者(現役)世帯の平均貯蓄現在高は、1,233万円と平均より少ない。
2. 世帯主が60歳以上の世帯では、貯蓄現在高が2,500万円以上の世帯が約3分の1である。
3. 4,000万円以上の貯蓄を保有する世帯は、全体の約1割で貯蓄全体の約4割を占める。富が一部に偏っている。

二人以上の世帯における1世帯当たりの平均貯蓄現在高

西暦	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	貯蓄中央 値 (万円)	負債現在高 (万円)
2002年	1,688	683	1,022	537
2003年	1,690	660	1,027	508
2004年	1,692	650	1,024	524
2005年	1,728	645	1,052	501
2006年	1,722	645	1,008	506
2007年	1,719	649	1,018	505
2008年	1,680	637	995	498
2009年	1,638	630	988	479
2010年	1,657	616	995	489
2011年	1,664	612	991	462

二人以上の世帯のうち勤労者世帯における1世帯当たりの平均貯蓄現在高

西暦	貯蓄現在高 (万円)	年間収入 (万円)	中央値 (万円)	負債現在高 (万円)
2002年	1,280	748	817	607
2003年	1,292	721	808	605
2004年	1,273	730	805	655
2005年	1,292	719	807	616
2006年	1,264	713	772	624
2007年	1,268	718	783	664
2008年	1,250	717	757	652
2009年	1,203	709	754	643
2010年	1,244	697	743	679
2011年	1,233	689	729	647

金額の低いほうから高いほうへ順に並べたときに、ちょうど“真ん中”にあたる金額(=中央値)は、**991万円**でした。「中央値(991万円)」が「平均値(1,664万円)」を下回っているのは、一部の貯蓄の多い世帯が、平均額を押し上げているためです。実際に貯蓄現在高別の分布をみると、平均値(1,664万円)を下回る世帯が、約3分の2(67.9%)を占めており、**貯蓄現在高の低い層に偏った結果**となっています。貯蓄現在高が「100万円未満」という世帯も、1割以上(11.2%)あります。

以上

著者プロフィール

乾 晴彦 氏

CFP、1級FP技能士、DCアドバイザー、宅地建物取引主任者、証券外務員一種資格、貸金業務取扱主任者、管理業務主任者。

都市銀行、損害保険会社の本社課長・部店長としてコンサルティング業務(PB室)等を担当。

その後、三菱証券(現 三菱UFJモルガン・スタンレー証券)の人材開発部で、FPの推進及びFP実務等の社内講師を務め、生命保険の教育責任者も担当。現在は富裕層向け相談業務、企業(主に大手金融機関と大手不動産会社)や大学でFP教育の講師として活動している。

今後のメルマガをより良い物とするために下記のページより皆様のお声をお聞かせ下さい。

<http://www.nichizei.com/fp-enquete.html>

メルマガ執筆者募集のお知らせ

税理士FP実務研究会事務局では、FP実務に関する様々なテーマでメルマガの執筆をしていただける方を募集中です。分野・テーマ等は自由です。最近の相談事例や得意分野など、ぜひ寄稿ください。執筆を希望される方は、税理士FP実務研究会事務局【㈱日税ビジネスサービス 総合企画部】までご連絡ください。TEL 03-3340-4488